

消防の広場

119

火事・救急・救助

住宅用火災警報器の
設置期限まであと

294日

※既存住宅への設置期限です

心構えはできてますか？

台風シーズン到来 自然災害に3つの備え



災害から自分たちの暮らしを守るためには、まずは災害を知ること。そして、備えることが大切。安心して毎日を暮らすため、日ごろからの備えについて考えてみましょう。

近年、大規模な災害が増加

近年、地球温暖化による環境変化などによって、全世界的に大規模な自然災害が増加しています。京丹後市でも、平成16年の台風23号で2千棟以上の家屋が倒壊や浸水などに見舞われるなど、大きな被害にあっています。

「思い込み」が被災の原因に

災害などで住民に危険が迫っていると判断された場合には、各地に避難所が開設され、市長から「避難勧告」や「避難指示」が出されます。

しかし、これらの警告が出されたにもかかわらず、避難せずに被害に遭うかたがいるのが現状です。

なぜ避難しないのでしょうか？

それは、心理学で「思い込み」などと呼ばれているものが原因だと考えられます。「災害によって自分の身に危険が及ぶようなことが起こるはずはない」と思い込んでしまい、非常事態であると認識できない状態に陥ってしまうのです。

また、このような思い込みによっ



平成16年の台風23号で起こった地すべり(弥栄町野間)

て自分の周りの人が避難せずにいると、「みんなじっとしているから避難しなくても大丈夫だろう」という考えに至ってしまうことがあります。それは、人は非常時「迷ったときは周囲の人の動きを探りながら同じ行動をとることが一番安全」と思い込んでしまう傾向があるからです。これらは、災害や事件などの非日常の状況が発生し何も考えられなくなったときや、混乱し優先すべき行動が分からなくなってしまうときによく見られる現象です。

①心の「緊急スイッチ」をON

避難勧告・避難指示は、非常事態を伝えるメッセージです。「周りの人も逃げていないから安心」という思い込みを捨て、心の「緊急スイッチ」

土砂災害危険箇所や避難所の場所などは、「京丹後市防災マップ」に詳しく載っているよ。



実際に歩いて、目と足で確認しておくといいわね。

③避難所までの経路は歩いて確認を

最寄りの避難所の位置や、最短経路を日ごろから確認しておくことも大切です。どこを歩けば安全なのか、途中に危険な箇所はないかなどに注意しながら、実際に歩いてみるのも一つの的方法です。毎日の暮らしの中に防災の心を取

正しい知識と助け合いの心を

災害は、いつも突然やってきて、時にはわたしたちの平穏な暮らしを一瞬にして奪ってしまいます。災害から自分たちの暮らしを守るためには、災害に対する正しい知識を持ち、しっかりと備えをしておくことと、地域で互いに助け合える環境を築くことが大切です。日ごろからの備えは何も特別なことではありません。備えをしておくことが安心して毎日を暮らすことにつながります。

災害時伝言ダイヤルが利用できます

地震や洪水などの大災害発生時は、電話利用が急増し、つながりにくい状況が1日～数日間続くことがあります。このような場合に、「災害時伝言ダイヤル」が開設されます。

「声の伝言板」(安否情報)の役割をする電話サービスです。被災地内やそのほかの地域の人々の間で、伝言の録音・再生をすることができます。

「171」をダイヤルし、利用ガイダンスに従って伝言の録音・再生をしてください。

①「171」をダイヤルします

171

ガイダンスが流れます

②録音・再生を選択します

録音
1

再生
2

ガイダンスが流れます

③キーとなる電話番号を入力します。被災地内の固定電話の番号を市外局番から入力してください

(携帯・PHSの番号は利用できません)

0XXX-XX-XXXX

録音

再生



※毎月1日にお試し利用ができます。ぜひ手順を体験しておいてください。

救急一ロメモ

熱中症にご用心

熱中症とは「熱射病」「熱けいれん」「熱疲労」「熱失神」の総称です。主に炎天下での長時間の作業・運動などが原因で発症します。乳児や高齢者は、暑い室内や車内にも長時間いるだけでも発症するので注意が必要です。症状は、めまい、頭痛、吐き気、意識障害などで、重症化すれば死に至ることもあります。



市消防本部救急救命士 小谷 将貴

暑い時間帯の作業を避けてこまめな水分摂取を

発症したかたがいたら、涼しいところへ移動させ、うちわや水枕などで体を冷却してください。意識がはっきりしていればスポーツドリンクなどを飲ませることが望ましいです。自力で飲めない人には無理に飲ませると窒息の危険があるので、救急車を呼び、医療機関で点滴などの治療を受ける必要があります。熱中症の予防のために、暑い時間帯の作業を避け、帽子の着用や、水分のこまめな摂取を心掛けましょう。

ひとたび大規模な災害が発生すると、ライフラインが寸断され、十分な支援が得られるまでに3日以上かかるといわれています。最低でも3日分の非常持出品を、携行しやすいリュックサックなどに入れて準備し

②非常持出品は最低3日分を

非常持出品の一例

※詳しい情報は、市内全戸配布された「京丹後市防災マップ」を参照してください。

- 水
- 非常食
- 懐中電灯
- ラジオ
- ナイフ
- 缶切り
- ビニール袋
- ヘルメット
- 包帯・ガーゼ
- 薬
- 衣類・手袋
- 布
- 眼鏡
- 預金通帳
- 健康保険証
- 免許証
- 現金

